



BMT 神奈川の HP はこちら

# 虹

題字：慈雲老大師（円覚寺派前管長）

■編集・発行／神奈川骨髄移植を考える会（略称：BMT 神奈川）

〒254-0042 神奈川県平塚市明石町 24-25-309 黒部設計事務所内 発行責任者／村上忠雄

TEL:090-4713-7300 FAX :0463-25-1383 <https://www.bmtkanagawa.com/> E-mail:bmtnoniji@yahoo.co.jp

■日本骨髄バンク <http://www.jmdp.or.jp> ■全国骨髄バンク推進連絡協議会 <http://www.marrows.or.jp>

## 令和4年度血液疾患医療講演会・個別相談会

～ 4年ぶりにリアル形式で開催 ～

令和5年3月4日（土）に、神奈川県主催、神奈川骨髄移植を考える会、再生つばさの会共催で「血液疾患医療講演会・個別相談会」を開催しました。本講演会・相談会は、血液疾患に対する治療方法について講演会を行い、県民や医療関係者の方々の血液疾患への理解を深めるとともに、血液疾患の患者さんを対象にした個別相談会を実施し、患者さんが抱える不安の解消を図ることを目的に、長年開催してきたものです。平成30年度に実施したのを最後に、令和3年度まで新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて中止していたため、4年ぶりの開催となりました。

講師にはNTT東日本関東病院血液内科の臼杵憲祐先生、北里大学病院血液内科の鈴木隆浩先生、国家公務員共済組合連合会虎の門病院分院血液内科の和氣敦先生の3名の専門医をお招きし、それぞれご講演いただくとともに、ご講演以外の時間を利用して、皆様からの相談を受けていただきました。運営の合間に先生方のご講演を拝聴いたしましたが、とても分かりやすくご説明いただき、私自身の理解も深めることができました。また、相談会につきましては、時間の都合上、1人20分とさせていただきますましたが、どなたも時間いっぱいまで相談

されており、ご参加いただいた皆様にこの機会を有効にお使いいただけたのではないかと考えております。

今回は久々の開催であり、また、感染対策のために、例年事前申込み不要であった講演会も相談会と同様に事前申込制とするなど、以前とは異なる状況下での開催でしたが、多大なるお力添えをいただき、お陰様で支障なく進行することができました。

本講演会・相談会の開催準備、当日運営にご協力いただいた皆様に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。このような取り組みや、血液疾患の治療に有効な手段の一つとされる造血幹細胞移植の推進を今後も行ってまいりますので、引き続き、ご協力をお願いいたします。

神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課  
遠藤 侑実



++お知らせ++

骨髄ドナー登録説明員養成講座を開催します。詳しくはHPで

7月2日 13:00~15:30

Zoomによるオンライン

主催：神奈川骨髄移植を考える会

共催：神奈川県

神奈川県赤十字血液センター

骨髄ドナー登録説明員養成講座

7月2日(日) 13:00~15:30

Zoomを利用したオンライン開催

10名参加

6月16日(金) 必着

## 全国骨髓バンク推進連絡協議会が 「東京マラソン2023」寄付先団体として参加



2020年の大会は全国協議会へ100名(国内88人、海外12人)の方にエントリーがあり約1,200万円の寄付がありました。しかし、コロナ

感染症による対策のため一般のランナーは走ることが出来ず、2023年まで権利が移行されました。本年3月5日には移行者も含め63人のエントリーがありました。当日は沿道で5kmおきに神奈川、東京、千葉、埼玉の各会のボランティアが、のぼり旗を持って応援しました。また、国際フォーラムで個別ラウンジを設置し「ミニいのちの輝き展」の開催や、ゴール後のランナーへのお茶の接待とキーホルダー等記念品、感謝状を渡しました。(村上)

### ～ 無事に完走する事が出来ました ～

私は45歳の時に癌の診断を受け、約6年間入退院を繰り返しました。治療の影響で体重は減り、体力もかなり低下していたので、当初はリハビリ目的でジョギングを始めました。その後骨髓バンクの活動を知り、自分も何か力になれないかと思い、ドナー登録説明員養成講座を受講しました。そこで知り合った仲間が骨髓バンクランナーの活動をしており「いつか自分も骨髓バンクランナーとしてマラソン大会に出場したい」と思うようになりました。

そして遂にその日がやってきました。さすがフルマラソン、途中で何度も脚が止まりそうになりましたが、骨髓バンクの仲間がたくさん沿道応援に来てくれて、本当に力になりました。



応援の力が凄いですね。これからも骨髓バンクランナーとして、大会に出場していきたいと思っています。(清水)

### ～ 沿道で応援しました ～

春の訪れを感じさせるような暖かい日、東京マラソン2023が4年ぶりに開催され、骨髓バンク普及啓発活動

として3名で沿道の応援に参加しました。今年は38,000人のランナーが参加しました。

そんな大勢の中から、骨髓バンクのチャリティーランナーの方々を見つけることは至難の業でしたが、骨髓バンクの3本の旗のお陰でランナーの方からこちらに気付いてくれました。

BMT 神奈川のチャリティーランナーとしてタスキをかけて走った清水さんは、まだまだ余裕があるようにこやかな笑顔で立ち寄ってくれました。山本さんはブラインドマラソンの伴走者として参加しました。

ある男性ランナーは「白血病と闘っている皆さんが一日も早くよくなりますように心をこめて走ります!」と。その後続く女性ランナーは「全ての人を笑顔にしたい自分に出来ることを少しずつやっていきたい」と書いたゼッケンを背中に貼って走っていました。また、「血液内科、血液内科!」とご自分の胸を指し走り去っていった医師もいました。骨髓バンクの旗がはためいてくれたお陰で触れ合いが出来、ランナーに感謝とファイトの声掛けができました。

それぞれの思いを抱えて走った皆様の心のタスキが患者さんに届くと信じています。そして骨髓、末梢血幹細胞移植が必要な患者さん全員にドナーさんが見つかる繋がりになってくれる事を願います。(小坂)



## 「新年F・マリノス DAY 献血 at 横浜市役所」 を開催(1月11、12日)

皆様のおかげで、110名の方に献血のご協力をいただきました。これは現市庁舎に移転してから開催した献血では、史上最高数となります。また、骨髓ドナー登録についても8名の方にご協力をいただきました。

ご協力いただいた皆様、そして横浜F・マリノス様、本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。(横浜市HPより転載)





## かながわボランティアフェスタ 2023に参加

基金 21 事業の助成を受けたボランティア団体が、それぞれの活動分野の垣根を越え、互いに協力しながら活動を広く内外に発信するためのイベントです。かながわ県民サポートセンターにて1月27日から3日間に渡り開催されました。

展示ブースでは、骨髄バンク、ならびに当会の活動内容について展示しました。来場者へ説明の後、ハート型の付箋にメッセージを書いてもらい、大きなハートの台紙に貼り付けてひとつの作品が完成しました。

・ ・ ・ メッセージの抜粋 ・ ・ ・

●骨髄バンククイズで具体的に登録する方法など理解できました●骨髄移植の新しい方法について学びました●骨髄移植の理解がすすみ、みんなが生きる希望をもってほしい●54歳までに早めに登録したいと思います



イベントコーナーでは骨髄バンククイズを開催し、集まった皆さんへ楽しみながらドナー登録について知っていただくことができました。



いろいろな団体と交流することで、日頃の活動の視野

を広げる機会になりました。記念撮影した“かになよ”は神奈川県内で社会貢献を発信しているゆるキャラです。(中島)



## キッズ用コットンキャップを寄付しました

BMT 神奈川では医療用ケア帽子コットンキャップを作成販売していますが、ボラフェスでお会いした団体へキッズ用のキャップを寄付させていただくことができました。



キッズ用キャップは市販の種類が少ないと聞いています。リラのいえへ6枚、こどもホスピス〜うみとそらのおうちへ4枚、必要としている方へ直接お渡しすることができました。(小野里)

## 神奈川骨髄移植を考える会の「考えない会」ツアー



伊勢原大山詣りと紅葉狩りとお豆腐とおいしいお酒のツアーへ11名で行って来ました。当日(11月23日)は天気予報どおり朝から雨降りでしたのでケーブルカーにもスイスイと乗ることが出来ました。「大山阿夫利神社」は別名「あめふり山」と言われ、雨乞いや五穀豊穡など、古くから人々の願いを受け止めてきた由緒あるお山です。紅葉は美しく、食事最高においしく、楽しい一日になりました。

「考えない会」は会員の親睦のため開催している伝統のイベントです。(中島)



## イベントデビューしました!

6月にドナー登録説明員の養成講座を受け、10月23日のホッチポッチミュージックフェスティバルで初めてイベントに参加をさせていただきました。登録会よりもたくさんのメンバーに直接お会いでき、BMT 神奈川の雰囲気を感じ取る事ができました。参加する前は少し緊張していたのですが、当日はとても温かく迎えていただき、心から楽しんで参加することができました。お世話になった皆さん、ありがとうございます。特に感じたのは、それぞれに得意なことを活かして”みんなで作り上げよう”というチームワーク意識が高かったことです。メンバー同士で協力し合いながら骨髄バンクの普及やBMT 神奈川の活動をより多くの方に知っていただくという行動されている姿を見て、「私も皆さんのお役に立ちたい」という思いが自然に湧いてきました。イベントに参加するにあたり、事前に「着ぐるみ着てみない?」とのお誘いがあり、せっかくなので着てみましたが、10月下旬とは思えないほどのお天気で、とてもいい汗をかきました。

予想外のデビューでしたがとても楽しかったです♪

今後も、コットンキャップのサポーターなどを通じて少しずつ活動に貢献していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。(栞)



## 🍀 末日聖徒イエス・キリスト教会にて 初めてのドナー登録会を開催 🌸

5～6年前までは献血を3年位連続で行っていたのですが、12月3日に初めての献血併行型ドナー登録が開催されました。教会側は事前に予約者を募り、会場も準備万端。入口ではプチプレゼントがありました。献血受付から医師の問診まで1部屋、駐車場に停めた献血バスで献血、最後の手続きの別室では献血とドナー登録のYouTubeが流れていました。スタッフ控室にはお茶やお菓子、お汁粉の用意もありました（お汁粉は時間がなくて取りに行けなくて残念）。



通りすがりの方を含め、18才の双子から50才代まで12名のドナー登録がありました。（小沢）

## 🌸 『地元でプチ・インターンシップ ～ボランティアムービーをつくろう～』

相模原市民活動中間支援施設連絡会、相模ボラディア（相模原市民活動センター、相模原市社会福祉協議会などで構成）主催の事業に参加しました。約2ヶ月というタイトなスケジュールの中で、当会の担当になった大学生は骨髄バンクのを知ることから始め、ドナーになった大学生の取材を中心とした動画を制作しました。この事業の目的は、大学生に市民活動に関心を持ってもらい、団体の広報課題解決の一助にし、小・中学生向けボランティアチャレンジスクール等福祉教育で活用することなどです。彼らのような若者が今後の社会を担ってくれることに明るい未来を確信しました。（小石川）

【動画は当会HPからご覧になれます】

## 🎵 横浜市消防音楽隊ランチコンサートで 普及啓発活動 🎵

2022年6月より、横浜市庁舎アトリウムや横浜駅東口新都市プラザの横浜市消防音楽隊ランチコンサート会場で、骨髄バンクの普及啓発活動をさせていただいています。資料をお渡しする際の反応は様々で、「ドナー登録しています」「骨髄提供しました」という嬉しいお声もありますが、「内容をよく知らない」「初めて聞いた」という方も多のが現状で、私も病気になる前はそうでした。この活動がいつか誰かの心



を動かすきっかけになればと願い、地道に続けています。

（原子）

## 📍 麻生区役所窓口 チャンスとギフトオブライフを設置 📍

川崎市麻生区の『麻生区役所地域みまもり支援センター』窓口、骨髄バンクの普及啓発グッズ「チャンス」と「ギフトオブライフ」を設置させていただけることとなり、1月11日（水）、担当職員のご厚意により早速設置してきました。

『地域みまもり支援センター』は地域の児童・高齢者・障がい者に対する広いフォローアップを管轄し、区役所広場や新百合ヶ丘駅で実施されている「献血活動」の担当となる部署です。私も麻生区保護司会や地域包括ケアに関する行事などで普段からお世話になっているところです。

今回の設置にあたり、特別な許可をもらう様な行動はしませんでした。普段から当会の活動に関して行政・地域のご協力をいただけるよう相談していたことで、担当職員さんのご理解が進んでいた点が大きいと感じています。また、川崎市の『骨髄ドナー支援事業』に対し、多くの方々に広報活動を進めたい旨をお話ししていたこともあり、「普及啓発グッズ」を用いることでそれが可能だと判断していただいた結果だと思っています。

今後は献血実施時の骨髄ドナー登録説明会を軸に、行政や地域のご協力を得ながら「命のバトン」を繋ぎ続けていければと思います。これからも様々な機会を通じて多くの方々のご理解を得られる活動を進めていきます。（老沼）



## 🌱 「命のアサガオ」種詰めで会員の交流会 1月18日（水） 相模大野にて

命のアサガオは白血病のため6歳で亡くなった丹後こうすけ君が植えたアサガオの種が始まりです。毎年、新潟県内の小学1年生が鉢に植えて育てるという体験を通して、命の大切さを学ぶ機会是我的ボランティア



の中でずっと継続したい活動でした。私は新潟から神奈川に転居して来たのですが、BMT 神奈川の会員が集まりアサガオの種の袋詰めを一緒にすることができました。自らアサガオを育てる方、地域の小学校に届ける方もいます。今年は神奈川の地でもアサガオの花が咲き誇ると思います。

（山崎）





BMT 神奈川は人材の宝庫！会の財産でもあり、いつも誰かのために頑張ってくれている会員ひとりひとりにスポットを当て、その貴重な闘病経験を含めた生きる姿や想いを、広く内外にご紹介する企画としてスタートした【はら子の部屋】シリーズの第6弾です。

ひとに何かを伝える、自分を表現する、その手段は言葉だけとは限らない。「一兵ちゃんの撮った人物の写真がすごくいい！」と話してくれた会員さんがいました。一眼レフのファインダーを通した向こう側の世界は、時に言葉以上の存在感で私たちに語りかける。繊細さと大胆さをあわせ持ち、自分から積極的に前に出るわけではないのに、周囲から気にかけてもらう存在。今回はそんな一兵さんにお話を伺いました。

## ファインダー



### ◆「茅ヶ崎」

両親が働いていてとても忙しかったので、面倒を見てくれたのはほとんど姉でした。食事の時間はふたりのことが多かったです。1歳の頃から住んでいる茅ヶ崎は大好きですね。海があり山も川もある。歴史の深い土地で買い物にも困らないし、引っ越す理由が見当たらない。



に乗っていたある日、親戚のおじさんと対局して見事に大敗、それ以来将棋はやめました。あとは空手もやっていましたね。カンフー映画が好きで手作りのヌンチャクで遊んだり、空き地に秘密基地を作ったりして、近所の友達と楽しく過ごしていました。

高学年になり、最初は全く興味のなかった塾でしたが、一緒に帰っていた友達が楽しそうに話すのを聞くうちに、自分も通いたくて入塾テストを受けたものの、落ちてしまう。そのことがとても悔しくて、分厚い参考書を買って勉強を始めました。

中学生時代はとにかく勉強に夢中でした。頑張るといふより、ただ楽しいから勉強する、そんな感じ。ノート作りに力を注いでいて、授業中に取ったメモを家で綺麗にまとめる、それに凝っていました。遠くから通学する同級生が多かったので、休日はレンタルビデオの映画にはまっていましたね。自分なりに楽しく過ごしていましたが、いわゆるガリ勉やオタクのようなタイプは軽く扱われることが多かった。それが嫌で悔しくて、高校では違う自分になろうと決め、キャラクターを変更して高校デビューを果たしました。といっても中高一貫校だったので顔ぶれは昨日までと同じ。その中で自分を変えるのは、もう半ば力づくでしたね(笑)。

### ◆「キャラ変」

保育園の頃は内気で、ひとり隅の方にいるような子でもでした。大人になってから知ったのですが、それを証明するかのように、ひとりであるスナップ写真が何枚も実家にあり、いったい誰が撮ってくれたのだろうと。小学生になって将棋クラブに入り、学校の中では得意な方だと調子



### ◆「一眼レフ」

もともと写真を撮ること自体は好きで、当時流行っていたコンパクトデジカメを持ち歩き、出会った人たちと一緒に撮ったりしていました。知り合った職場の方が一眼レフを持っていたので、すすめられて自分も買ったまではよかったものの、1年くらい使わずにほったらかしていました。ある時、何気なく撮った写真が「カリッ！」「パリッ！」と仕上がって、何の知識もないのでたまたま設定がうまくいっただけだと思うけど、「こんな



風に撮れるんだー!？」と。そこから本を読んだりして自己流で始めたのが、本格的な活動のきっかけとなりました。これも、勉強しているということじゃなく、ただ楽しいからやっているという感じでした。その「カリッ!と」「パリッ!と」の写真は、残念ながらPCが壊れたためなくなってしまいました。

そのうちに、時々遊びに行っていたクラブにも一眼レフを持っていくようになりました。笑顔あふれる楽しい場所なので、それを映していると自分も楽しくなる。暗い雰囲気でもカメラを構えている人よりも、楽しそうに撮影している方に人は集まる気がして、その連鎖がまた楽しかったです。

### ◆「さい帯血移植」



2度目のひとり暮らしを始めて1か月くらい経ったある日、野外イベントに行きました。そこで会った友達に「顔色が悪いけど大丈夫？」と繰り返し言

われたことから、治療が始まりました。それまでふらつきなどの不調はありつつも、一過性のものだろうと気にも留めていませんでしたが、その日は複数の人から同じ心配をされ、安心してもらう意味もあって近所の病院を受診。そこで告げられたのは「白血病の疑いがあります」とのこと。転院後の詳しい検査結果は覆ることなく、「骨髄異形成症候群が転化した急性骨髄性白血病」というものでした。

両親と一緒に病気のことを聞いた日の夜、病院の廊下でひとり座っている時に初めて実感が湧き涙が溢れました。親に申し訳ないという気持ちと、自分自身への憐憫もあったのかもしれませんが。病院の帰り道「まさか自

分の息子がこんな病気に・・・」と、その結果が受け入れられずにいた母に、「一兵に何かあったら私が支える!」と姉が言ってくれたことが、とても安心材料になったと、最近になって母から聞きました。

3歳上の姉は芯の強い人で、反抗期真っただ中には父親と真っ向勝負をしているような性格だったので、肝の座った姉ちゃんらしいと、改めて感謝しました。自分とHLAのマッチするさい帯血が見つかった時は、移植のこわさより、3人の子どもたちがいる姉には迷惑をかけないで済むという、ただただその安心感が大きかったです。

### ◆「今日をやりきる」

さい帯血移植という目的に向けて日々の治療内容は決まっていたので、考えることはいたってシンプル。

語弊があるかもしれないことを覚悟のうえで言うと、「結果的に入院生活自体は楽しかった」です。大部屋の無菌室がふたつあり、部屋の掃除の時間は全員外に出されて廊下で待つ。その間、お互いの検査結果を見せ合っ

て情報交換をしたり、掃除が終わっても部屋に戻らず話したりと、皆が何とかして日々楽しいことを見つけ、気を紛らわそうと積極的になっていたと思う。そのおかげで、つらいだけじゃない入院生活が送れたのかな。それと、病棟にはWi-Fiがなく自分で契約したポケットWi-Fiで電子書籍を読んだり、目を使うのが厳しい時はラジオや音楽、朗読アプリなどの「聴く」コンテンツにも救われた気がします。

それでも移植が決まるとやっぱりいろいろ考えてしまう。そんな時に病院の臨床心理士さんからいただいた言葉です。「昨日のことは考えず、明日にも思いを馳せず、今日をなんとかやりきることを考えよう!」移植後の急性GVHD(合併症)で心身共にきつかった時に、このアドバイスはとても響きました。

### ◆「周波数」

退院にあたり、ひとりの生活は大変なので実家に戻ることにしたのですが、正直それがとてもつらかったです。そんな時に居場所となったのが知り合いの飲食店で、毎日そこに入り浸っていました。オーナーがとても周波数の合う方で、音楽にめちゃくちゃ詳しく、心の拠りどころにしていました。退院から1か月くらいの体は、100メートル







ル歩くのにも息を切らしていた時期でしたが、バイクで10分ほどの距離を毎日通っていました。結果的にそれが体のリハビリにもなったと思います。お店では月1回、「力み(りきみ)を抜く古武術」を教えてくれる先生が教室を開催していて、力んでいることの弊害など、今の自分に繋がる大切なことを学んだ気がします。残念ながらお店は閉店しましたが、新天地に開く予定らしいので、これからもずっと付き合いたい方たちです。



#### ◆「大河の1滴に」

そんなある日、インターネットで見かけたのが大谷貴子さんの記事でした。骨髄バンクを設立したこの方についてみたいとコーディネーターさんに話すと、「直接連絡してみたら？」とのこと。その言葉に後押しされてメールを送ったところ、幸いにもすぐにお返事をいただきました。そこにBMT神奈川のことを書かれていたことが入会のきっかけです。

ボランティア活動は、「楽しい」より、「嬉しい！」です。献血に来てくれた方たちを見た時にそう感じまし



た。そして、BMT神奈川の活動を知ってから、「こんなに目立たない活動を続けている名も無き人たちがここにいて、全国にもいる。自分が入会した時は活動からすでに30年という大河になっていて、自分もその大河の1滴になれたら・・・」との思いで活動しています。



#### ◆「丁寧に生きる」

入会前の自分は、元に戻り切らない体調面も考え、これから何をしていこうか定まらず少し焦っていたと思います。そんな時、ドナー経験をした先輩会員さんに言われた言葉が心に刺さりました。「元気であることが1番の恩返し！」その時から「日々を元気で健やかに1日1日を丁寧に生きる」ことが一番大切な目的であり目標になりました。何よりもそれを最優先にしたうえで、ボランティア活動や仕事を通じて社会とつながっていったらと思っています。



## インタビュー後記

「他人に弱みを見せられることの強さ」それを再認識した今回のインタビューだった。自分の肌感覚を大切にしながら無理をせず、自らを過大にも過少にも評価せず真摯に言葉を選ぶ姿は心を打つ。

県のたより令和3年10月号に掲載された、会員さんの移植経験談に添える写真撮影を、一兵さんをお願いしたことがある。右の写真はその時のもの。初めて見る撮影風景にわくわくしながら臨んだ当日、3人での楽しい会話から、いざ撮影に入ると空気が一変。素人目にもわかるほど、次第に熱量が増していく瞬間を目の当たりにした記憶がある。場所を変えながら、自分の中で説得力を持つものだけを写しているように思えた。そんなふたりを眺めながら、思い付きで撮った1枚を、無謀にもここに載せてみた。「撮影している自分を撮った写真はほとんどなくて」と、喜んでいただけて幸いです。(原子)



◆登録会実施結果 (R4/9月～R5/3月)

実施月	開催場所(開催日)	登録/説明
【R4/9月～12月集計】 9月:19件/10月:24件/11月:15件/12月:16件		630/823
R5 1月	本厚木駅北口(1/7)	6/10
	ノジマモール横須賀店前(1/8)	5/6
	戸塚区役所(1/10)	4/6
	ソニー(株)厚木テクノロジーセンター(1/10)	2/3
	横浜市役所(1/11,12)	7/13
	JAさがみ茅ヶ崎支店(1/14)	5/9
	イオンモール大和(1/15)	7/10
	神奈川県庁舎(1/17,18)	6/10
	綾瀬市役所(1/17)	1/2
	座間市役所(1/20)	4/5
	平塚駅北口(1/21)	11/12
	小田原ダイナシティイースト(1/22)	5/6
京急横須賀中央駅前(1/22)	7/8	
横須賀市役所(1/23,24,25)	12/17	
川崎市多摩区役所(1/26)	10/12	
2月	京急横須賀中央駅前(2/1)	5/7
	アピタ長津田店(2/3)	5/9
	本厚木駅北口(2/4,24)	13/20
	イオンモール大和(2/5)	6/8
	JAさがみ茅ヶ崎支店(2/6)	4/6
	厚木市役所(2/7)	2/4
	川崎市中原区役所(2/8)	7/8
	小田原ダイナシティイースト(2/12)	9/9
	Meiji Seika ファルマテック(株)(2/17)	2/4
	ミナカ小田原(2/18)	8/10
	JR大船駅北改札笠間口(2/18)	9/10
	イトーヨーカ堂立場店前(2/19)	10/12
	防衛大学校(2/20,21,22)	30/36
	ノジマモール横須賀店前(2/23)	3/4
フレスポ小田原シティモール(2/26)	8/14	
川崎市麻生区役所(2/28)	6/9	
3月	相模原市役所(3/3,31)	10/14
	ニッパツ三ツ沢球技場(3/4)	2/3
	川崎市役所第三庁舎(3/6,7)	8/10
	京急久里浜ウィング前(3/8)	10/11
	京急横須賀中央駅前(3/11,18,29)	22/35
	小田原ダイナシティイースト(3/12)	4/6
	平塚市教育会館(3/14)	3/4
	大船駅東口(3/18)	3/5
	ノジマモール横須賀店前(3/21)	4/7
	本厚木駅北口(3/24)	3/3
	JR鶴見駅西口フーガ前(3/25)	5/6
	フレスポ小田原シティモール(3/26)	3/4
	京急横須賀中央駅前(3/29)	8/14
相模原市役所(3/31)	4/6	

◆献血ルーム登録数集計 (R4/9月～R5/3月 26回)

	かわさき ルフロン (7回)	横浜駅東口 クロスポート (7回)	横浜 Leaf (7回)	海老名 (5回)
合計	50/68	40/53	70/100	18/30
累計 (27/5～)	802/1016	866/1122	538/694	18/30

ビル建物総合管理・施設警備  
**有限会社 白朝サービス社**

神奈川県横須賀市汐入町 4-28

TEL : 046-825-7180 FAX : 046-825-7163

◆日本骨髄バンクの現況 (R5年3月末現在)

骨髄バンクデータ集より	全国	神奈川県
ドナー登録者数	544,305	27,921
患者登録者数	1,734*	66
移植実施数	27,558*	1,831

※海外を含む

◆ご寄付 & 募金のご報告◆  
 みなさまありがとうございます

本厚木登録会通行者様	1,000円
横浜泉ライオンズクラブ様	10,000円
天 法楽様	50,000円
Baseball Hob まるは様	2,468円
川崎西北ロータリークラブ様	20,000円
川崎麻生ロータリークラブ様	10,000円
岡本 恭子様	10,000円
GIBUN 手づくり市募金箱(2回分)	1,807円
あさおセンター祭り募金箱	830円
ホッチポッチミュージックフェスティバル募金箱	3,020円
さがみはら市民活動フェスタ募金箱	3,580円
クローバーベルフレンズコンサート	54,712円
SDA 横須賀キリスト教教会献金 サントコンサート	20,850円
大磯ウィンドアンサンブルコンサート寄付	128,060円
かながわボランティアフェスティバル募金箱	6,930円
第50回相模原市民若葉まつり募金箱	1,720円
厚木支部管内ドナー登録会活動助成金	150,000円

私たちの活動は善意のご寄付で支えられています。  
 ご協力をお願いいたします。

++ 寄付の振込先 ++

◎ ゆうちょ銀行から

郵便振替口座：00230-8-55751

加入者：神奈川県骨髄移植を考える会

◎ 銀行からゆうちょ銀行へ振り込む場合

支店：〇二九(ゼロニキュウ)支店

当座 0055751

口座名：神奈川県骨髄移植を考える会

本紙に掲載されている個人名や金額につきましては  
 ご本人の承諾をいただいております。

【編集後記】

前号の発行から8か月が経ちます。読み返すとオンラインの記事が多い。P1~3：一転し今号では、対面の活動が多く活気が戻りました。P5~7：一兵さんが初めてドナー登録会に参加した日を思い出します。暑い駅前で90度に頭を下げていた彼。何度も何度も、何人も何人も。「丁寧に生きる」とはそういうことだったのかと納得。(中島)